

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3671700254		
法人名	社会福祉法人 健祥会		
事業所名	グループホーム礼あり優あり		
所在地	吉野川市鴨島町麻植塚字向麻山西196-1		
自己評価作成日	平成26年12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成27年2月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居者の方が安心して過ごせるホームづくりを目指しています。掃除、洗濯など家庭的な環境を大切にしており、菜園での収穫を入居者の方々と一緒に行っています。また、併設施設のケアハウスと連携を図り、地域交流の場を設けています。健祥会グループが取り組んでいる5つのゼロ(おむつゼロ、骨折ゼロ、褥瘡ゼロ、拘束ゼロ、胃瘻ゼロ)にも力を入れ、入居者の方の生活をサポートしております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所では、利用者一人ひとりの暮らし方を大切にしつつ、日々を活動的に送ることができるよう支援している。幼稚園児の来訪を受け入れており、利用者子どもとの交流を積極的に支援している。また、利用者一人ひとりの力量に応じて、掃除や洗濯物たたみ、調理等の役割を担ってもらい、家庭的な日常生活を実感することができるよう取り組んでいる。地域との関わりづくりにも積極的に取り組んでおり、地域の一斉清掃に参加したり、自主的にゴミ拾いを行ったりしている。なお、地域の祭りや事業所の敬老会では、相互に行き来するなどして交流を深めている。職員は、事業所内・外の研修会へ積極的に参加し、専門性の獲得とサービスの質の向上に努めている。つねに管理者は、職員とコミュニケーションを図るよう心がけ、職員一人ひとりの自主性の発揮や組織力の向上に取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			剣の間 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「家庭的な環境のもとで、心と尊厳のある生活を一人一人のニーズに対応した介護サービスを提供します。」朝礼時に職員が交代で理念を唱和し、理念について理解し実践できる体制を築いている。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を掲げている。全職員で理念を共有して日々のケアで実践し、現状に応じたものかどうか確認し合っている。また、ユニットごとに特色を活かした目標作りにも取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や地域の行事に出かけ交流している。隣接のケアハウスの入居者やデイサービス利用者との交流もある。また、合同敬老会を開催し、地域の老人会の方々と交流を図っている。	利用者と職員で地域のサロンを利用したり、地域の祭りなどの行事へ参加したりして、積極的に地域との交流を図っている。また、地域の一斉清掃にも積極的に参加している。敬老会に地域の方を招待するなどして、双方向的に交流することができるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々へ行事のご案内や研修会を開催することで、ケアサービスの推進に還元していく。実習生の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実施行事や行事予定を報告し、参加メンバーから意見を聞き入れるとともに、地域の情報を収集し、サービス向上に活かしている。	年6回、運営推進会議を開催している。会議では、事業所の取り組みや現状を報告したり、意見交換を行ったりしている。消防署員などの出席も得ており、事業所としての具体的な災害対策について話し合うなどしている。話しあった内容は、職員に周知し共有化を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者、地域包括センター等と定期的に情報交換を行っている(GH連絡協議会、運営推進会議等)。市町村担当ケアマネジャーと連携を図り、ケアプランの作成を行っている。	日頃から、市担当者に事業所の考え方や実情を伝えたり、相談をしたりしている。グループホーム連絡協議会や各種研修会にも参加し、協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてホーム内研修会を開催し、身体拘束ゼロを掲げケアに取り組んでいる。	事業所では、継続的に身体拘束に関する研修会を行い、拘束の内容とその弊害を正しく理解するようにしている。日頃の利用者との関わりを通じて気づいたことは全職員で話し合っており共有している。また、日頃から職員同士で相互に研鑽したり、注意したりすることのできる関係を構築している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修を行い、虐待防止へ向けた取り組みを行っている。法令を理解し、遵守できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			剣の間 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在入居されている方が成年後見人制度を利用している。制度について勉強会を開催し、職員に説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には重要事項説明書の内容について説明を行いホームについて理解、納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等で意見を聞くようにしている。運営推進会議においても家族の意見を参考にし、サービスの向上に努めている。各ユニットに苦情処理箱を設置している。	事業所では、利用者や家族が意見や要望を気軽に表出しやすい雰囲気づくりを心がけている。利用者や家族にニーズ調査を行い、意見や要望を把握するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を開催し意見や要望を聞く場を設けている。常日頃からコミュニケーションをとり、理解を深めている。	月1回、職員会議の機会を設け、職員の意見や要望を聞くようにしている。代表者や管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションを図るよう心がけており、出された意見は事業所の運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人が職員の評価体制を構築し、向上心を持つように働きかけ職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員へ研修参加を促し、知識、技術の向上を図っている。法人による介護技術チェックにより段階的にレベルアップが図れる体制をとっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会や老協グループホーム部会に参加し、他のホーム職員と交流を持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			剣の間 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人、家族と面会し、サービスについての説明を行い不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族の希望や要望を聴きホームで安心して暮らしていけるよう設備の充実、職員の質の向上に努めている。今までの苦労や家族の意向を十分聴いたうえで対応し、信頼関係をつくるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用申込時に本人の心身の状態を見極め本人にとってサービスが適切であるか判断している。必要に応じて他事業所と連携を図り、安心、納得の上でサービスを受けていただけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と職員が共に支えあえる関係づくり。お互いが励ましあえる場面があり、おだやかな生活ができるように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事案内や健康管理について、家族と連絡を取り合い共に本人を支えて行ける体制づくりに取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のお祭りに参加したり、本人が行きつけのお店や美容室に行けるように支援している。	事業所では、利用者一人ひとりのこれまでの生活習慣を大切に捉え、行きつけの商店や美容院の利用を支援している。利用者の知人等の来訪も多く、気軽に立ち寄ってもらえるような雰囲気づくりに努めている。馴染みの関係が継続的なものとなるよう留意しつつ支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様に職員が間に入り、利用者同士の関係がうまくいくように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			剣の間 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームでの暮らしがどのようなものであったか情報を提供し、以前と変わらない生活が送れるよう最大限働きかけを行う。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行動や表情から本人の思いを把握し、何が最良なのかを家族を交え検討している。	日頃の利用者との関わりのなかで、一人ひとりの会話や表情等から思いや暮らし方の意向を把握するよう努めている。意思の表出が困難な方には、家族からこれまでの暮らし方について聞くなどしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の暮らしがどのようなものであったのか本人、家族、地域の人たちから情報を得られるように努めている。また、センター方式を活用し、アセスメントをとっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズム、趣味、体力等を見極め、できることを見つけるとともに、毎朝バイタルチェックを行い、心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、カンファレンスを全職員で行い介護計画に反映している。どのようなケアが必要であるかを話し合っている。	ユニットごとにカンファレンスを行っている。本人や家族に意向を聞き、医師等の関係者の意見も踏まえたうえで、本人本位の自己実現等に留意した介護計画を作成するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果について、活動記録、サービス担当者会議(毎月)、モニタリング、家族へのお便りを作成し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院、協力病院への受診など個々に合わせて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			剣の間 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接施設との連携や、ボランティアへの協力を呼びかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望される医療機関へ受診している。家族と協力し通院介助を行っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診時、家族の付き添いが困難な場合には、職員が同行しており、事業所と家族間で相互に連絡をするようにしている。緊急時に備えて利用者一人ひとりの情報カードを作成するなどの工夫を行い、適切な医療の受診に向けた支援に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理について看護師と連携し申し送りを徹底することで、常時利用者の健康管理や支援を行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が入院時に付添い病院関係者へ情報の提供を行っている。退院後もかかりつけ医、協力医と連携を図り対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を大切に、かかりつけ医、協力病院との連携を密に図り、終末期看取りの指針やマニュアルの作成を行っている。	契約時の段階で、本人や家族に重度化や終末期に関する事業所の考え方や方針を説明している。利用者の心身状況の変化に応じて、本人や家族、医師等の関係者間で話し合いチームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故が起こる度に検討委員会を開催し、事故の再発防止に努めている。急変や事故が発生した場合には迅速な行動がとれる体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーを設置し、防火対策に努めている。消防署の協力で利用者と共に消火器の使い方や避難訓練を定期的に行っている。地域の人と一緒に参加し協力体制をしている。	地域住民や消防署の協力を得たうえで、避難訓練や消火訓練を実施している。火災や地震、水害等を想定した訓練となっており、地域全体のハザードマップで確認する機会にもなっている。非常食や水の備蓄も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			剣の間 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内研修を行い、プライバシーの保護、個人情報の取り扱いについて、十分注意するよう徹底している。また、普段の何気ない会話でも本人のプライバシーを損なわないような対応や声掛けに配慮している。	利用者一人ひとりの尊重やプライバシーの確保に関する研修会を行っている。職員は、利用者を人生の先輩として敬い、言葉遣い等にも留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自己決定できる場面づくりに取り組み、希望や願いを把握し、関わる時間を増やしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の個性に合わせた生活の流れを理解し、その人その人に合わせた支援を重視している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員はお化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう見守りや支援をしている。馴染みの美容院へ出かけるなど、本人の望む店に行けるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が職員と一緒に調理を行い、楽しみながら食事ができる環境づくりに取り組んでいる。野菜の収穫等も楽しんでいただき食事が楽しくなるように支援している。	利用者と職員で、調理やおやつ作りをともに行っている。会話を楽しみつつ、ともに食事をしている。利用者がこれまでに培ってきた経験を活かすことができるよう、干し柿作りなどを職員とともにしている。また、菜園で育てた芋の収穫の喜びを味わうなど、食の楽しみに繋がる工夫も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェックし、不足していないか確認できる体制をとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。マニュアルに沿った研修もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			剣の間 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をチェックし、排泄パターンを把握することでおむつを使用しないで排泄ができるように支援している。	職員がトイレ誘導を行う際には、一人ひとりの状況を把握したうえで声かけや誘導を行っている。利用者一人ひとりの状況に応じた誘導を心がけ、トイレで自立して排泄することができるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を1500ml目標に摂取をしていただき、身体を動かす機会を作り献立の工夫、見直しで自然排便できるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日午前、午後と好きな時間に入れる体制をとっている。家庭的な浴室で落ち着いた入浴ができる環境である。	利用者の希望する時間帯に入浴することができるよう取り組んでいる。職員は、利用者への声かけやタイミングを工夫することで、一人ひとりがくつろいで入浴することができるよう支援している。特殊浴槽も設置し、体に無理なく入浴できる環境づくりをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、散歩や体操等を行うことで生活リズムが安定できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や、個人ケースに整理して職員が内容を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族の協力を得て入居者本人の希望や嗜好に合った役割づくりを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きたいところや、お買い物に出かけたり外食、ドライブなども行っている。	事業所では、日常的な散歩や日光浴の支援を行っている。利用者一人ひとりの希望や必要に応じて、買い物に出かけたり、職員とドライブへ出かけたりすることができるよう外出支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			剣の間 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金についての理解ができる人には、家族の協力を得て少額のお金を持っている人もおり、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したい希望のある方には、すぐ対応し連絡できるようにしている。手紙やハガキのやり取りも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾り付けや、家具などで安心して生活できるようにしている。吹き抜けと床暖房で快適な生活空間となっている。	共用空間は広くゆったりとしている。観葉植物や利用者の作品を飾っている。雛飾りなどの季節感にも配慮しており、居心地の良い空間となっている。日中は、利用者と職員でレクリエーションを楽しんだり、洗濯物たたみをしたりして、憩いの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コタツや和室、テーブルやソファで、居心地の良いくつろげる空間をつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や家で使っていた家具をそのまま部屋に持ち込まれ馴染みの生活スタイルに合わせた部屋にしている。	事業所では、居室に鏡台や使い慣れた家具を持ち込んでもらい、一人ひとりが自分らしく暮らすことができるよう支援している。利用者と職員で掃除や整理を行い、一人ひとりが居心地良く暮らすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な生活環境づくりを心がけている。入居者にとって危険なものは配置せず安全に生活できる環境を整えている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			渦の間 実践状況	川の間 実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「家庭的な環境のもとで、心と尊厳のある生活を一人一人のニーズに対応した介護サービスを提供します。」朝礼時に職員が交代で理念を唱和し、理念について理解し実践できる体制を築いている。	理念「家庭的な環境のもとで、心と尊厳のある生活を一人一人のニーズに対応した介護サービスを提供します。」朝礼時に職員が交代で理念を唱和し、理念について理解し実践できる体制を築いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や地域の行事に出かけ交流している。隣接のケアハウスの入居者やデイサービス利用者との交流もある。また、合同敬老会を開催し、地域の老人会の方々と交流を図っている	日常的に散歩や地域の行事に出かけ交流している。隣接のケアハウスの入居者やデイサービス利用者との交流もある。また、合同敬老会を開催し、地域の老人会の方々と交流を図っている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々へ行事のご案内や研修会を開催することで、ケアサービスの推進に還元していく。実習生の受け入れも行っている。	地域の方々へ行事のご案内や研修会を開催することで、ケアサービスの推進に還元していく。実習生の受け入れも行っている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実施行事や行事予定を報告し、参加メンバーから意見を聞き入れるとともに、地域の情報を収集し、サービス向上に活かしている。	実施行事や行事予定を報告し、参加メンバーから意見を聞き入れるとともに、地域の情報を収集し、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者、地域包括センター等と定期的に情報交換を行っている(GH連絡協議会、運営推進会議等)。市町村担当ケアマネージャーと連携を図り、ケアプランの作成を行っている。	市町村担当者、地域包括センター等と定期的に情報交換を行っている(GH連絡協議会、運営推進会議等)。市町村担当ケアマネージャーと連携を図り、ケアプランの作成を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてホーム内研修会を開催し、身体拘束ゼロを掲げケアに取り組んでいる。	身体拘束についてホーム内研修会を開催し、身体拘束ゼロを掲げケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修を行い、虐待防止へ向けた取り組みを行っている。法令を理解し、遵守できるように努めている。	ホーム内研修を行い、虐待防止へ向けた取り組みを行っている。法令を理解し、遵守できるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			渦の間 実践状況	川の間 実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在入居されている方が成年後見人制度を利用している。制度について勉強会を開催し、職員に説明を行っている。	現在入居されている方が成年後見人制度を利用している。制度について勉強会を開催し、職員に説明を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には重要事項説明書の内容について説明を行いホームについて理解、納得を得るようにしている。	入居の際には重要事項説明書の内容について説明を行いホームについて理解、納得を得るようにしている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等で意見を聞くようにしている。運営推進会議においても家族の意見を参考にし、サービスの向上に努めている。各ユニットに苦情処理箱を設置している。	面会時等で意見を聞くようにしている。運営推進会議においても家族の意見を参考にし、サービスの向上に努めている。各ユニットに苦情処理箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を開催し意見や要望を聞く場を設けている。常日頃からコミュニケーションをとり、理解を深めている。	毎月、職員会議を開催し意見や要望を聞く場を設けている。常日頃からコミュニケーションをとり、理解を深めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人が職員の評価体制を構築し、向上心を持つように働きかけ職場環境の整備に努めている。	法人が職員の評価体制を構築し、向上心を持つように働きかけ職場環境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員へ研修参加を促し、知識、技術の向上を図っている。法人による介護技術チェックにより段階的にレベルアップが図れる体制をとっている。	職員へ研修参加を促し、知識、技術の向上を図っている。法人による介護技術チェックにより段階的にレベルアップが図れる体制をとっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会や老協グループホーム部会に参加し、他のホーム職員と交流を持つようにしている。	GH連絡協議会や老協グループホーム部会に参加し、他のホーム職員と交流を持つようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			渦の間 実践状況	川の間 実践状況	実践状況
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人、家族と面会し、サービスについての説明を行い不安の解消に努めている。	入居前には本人、家族と面会し、サービスについての説明を行い不安の解消に努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族の希望や要望を聴きホームで安心して暮らしていけるよう設備の充実、職員の質の向上に努めている。今までの苦労や家族の意向を十分聴いたうえで対応し、信頼関係をつくるようにしている。	本人、家族の希望や要望を聴きホームで安心して暮らしていけるよう設備の充実、職員の質の向上に努めている。今までの苦労や家族の意向を十分聴いたうえで対応し、信頼関係をつくるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用申込時に本人の心身の状態を見極め本人にとってサービスが適切であるか判断している。必要に応じて他事業所と連携を図り、安心、納得の上でサービスを受けていただけるように努めている。	利用申込時に本人の心身の状態を見極め本人にとってサービスが適切であるか判断している。必要に応じて他事業所と連携を図り、安心、納得の上でサービスを受けていただけるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることを職員と一緒にしていただける関係づくり(洗濯たたみ、調理手伝い等)	できることを職員と一緒にしていただける関係づくり(洗濯たたみ、調理手伝い等)	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事案内や健康管理について、家族と連絡を取り合い共に本人を支えて行ける体制づくりに取り組んでいる。ほぼ毎日、面会に来られる娘さんと過ごしやすい環境に配慮している。	行事案内や健康管理について、家族と連絡を取り合い共に本人を支えて行ける体制づくりに取り組んでいる。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のお祭りに参加したり、本人が行きつけのお店や美容室に行けるように支援している。	地域のお祭りに参加したり、本人が行きつけのお店や美容室に行けるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様に職員が間に入り、利用者同士の関係がうまくいくように支援している。	孤立しない様に職員が間に入り、利用者同士の関係がうまくいくように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			渦の間 実践状況	川の間 実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームでの暮らしがどのようなものであったか情報を提供し、以前と変わらない生活を送れるよう最大限働きかけを行う。	ホームでの暮らしがどのようなものであったか情報を提供し、以前と変わらない生活を送れるよう最大限働きかけを行う。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行動や表情から本人の思いを把握し、何が最良なのかを家族を交え検討している。	日々の行動や表情から把握し、何が本人にとって最良なのかを家族を交え検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の暮らしがどのようなものであったのか本人、家族、地域の人たちから情報を得られるように努めている。また、センター方式を活用し、アセスメントをとっている。	以前の暮らしがどのようなものであったのか本人、家族、地域の人たちから情報を得られるように努めている。また、センター方式を活用し、アセスメントをとっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズム、趣味、体力等を見極め、できることを見つけるとともに、毎朝バイタルチェックを行い、心身状態の把握に努めている。	生活リズム、趣味、体力等を見極め、できることを見つけるとともに、毎朝バイタルチェックを行い、心身状態の把握に努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、カンファレンスを全職員で行い介護計画に反映している。どのようなケアが必要であるかを話し合っている。	日々の中でアセスメント、カンファレンスを全職員で行い介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果について、活動記録、サービス担当者会議(毎月)、モニタリング、家族へのお便りを作成し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケアの実践、結果について、活動記録、サービス担当者会議(毎月)、モニタリング、家族へのお便りを作成し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院、協力病院への受診など個々に合わせて柔軟に対応している。	本人、家族の状況に応じて通院、協力病院への受診など個々に合わせて柔軟に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			渦の間 実践状況	川の間 実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア受け入れの際は剣の間へお楽しみ会を見に行く。	ボランティア受け入れの際は剣の間へお楽しみ会を見に行く。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望される医療機関へ受診している。家族と協力し通院介助を行っている。	本人、家族が希望される医療機関へ受診している。家族と協力し通院介助を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理について看護師と連携し申し送りを徹底することで、常時利用者の健康管理や支援を行えるようにしている。	健康管理について看護師と連携し申し送りを徹底することで、常時利用者の健康管理や支援を行えるようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が入院時に付添い病院関係者へ情報の提供を行っている。退院後もかかりつけ医、協力医と連携を図り対応している。	職員が入院時に付添い病院関係者へ情報の提供を行っている。退院後もかかりつけ医、協力医と連携を図り対応している。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を大切にし、かかりつけ医、協力病院との連携を密に図り、終末期看取りの指針やマニュアルの作成を行っている。	本人や家族の意向を大切にし、かかりつけ医、協力病院との連携を密に図り、終末期看取りの指針やマニュアルの作成を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故が起こる度に検討委員会を開催し、事故の再発防止に努めている。急変や事故が発生した場合には迅速な行動がとれる体制を整えている。	事故が起こる度に検討委員会を開催し、事故の再発防止に努めている。急変や事故が発生した場合には迅速な行動がとれる体制を整えている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーを設置し、防火対策に努めている。消防署の協力で利用者と共に消火器の使い方や避難訓練を定期的に行っている。地域の人と一緒に参加し協力体制をしている。	スプリンクラーを設置し、防火対策に努めている。消防署の協力で利用者と共に消火器の使い方や避難訓練を定期的に行っている。地域の人と一緒に参加し協力体制をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	渦の間	自己評価	川の間	自己評価	実践状況
				実践状況		実践状況		実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>								
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている		ホーム内研修を行い、プライバシーの保護、個人情報の取り扱いについて、十分注意するよう徹底している。また、普段の何気ない会話でも本人のプライバシーを損なわないような対応や声掛けに配慮している。		ホーム内研修を行い、プライバシーの保護、個人情報の取り扱いについて、十分注意するよう徹底している。また、普段の何気ない会話でも本人のプライバシーを損なわないような対応や声掛けに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている		入居者が自己決定できる場面づくりに取り組み、希望や願いを把握し、関わる時間を増やしている。		入居者が自己決定できる場面づくりに取り組み、希望や願いを把握し、関わる時間を増やしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		入居者の個性に合わせた生活の流れを理解し、その人その人に合わせた支援を重視している。		入居者の個性に合わせた生活の流れを理解し、その人その人に合わせた支援を重視している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している		職員はお化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう見守りや支援をしている。馴染みの美容院へ出かけるなど、本人の望む店に行けるよう努めている。		職員はお化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう見守りや支援をしている。馴染みの美容院へ出かけるなど、本人の望む店に行けるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		入居者が職員と一緒に調理を行い、楽しみながら食事ができる環境づくりに取り組んでいる。野菜の収穫等も楽しんでいただき食事が楽しくなるように支援している。		入居者が職員と一緒に調理を行い、楽しみながら食事ができる環境づくりに取り組んでいる。野菜の収穫等も楽しんでいただき食事が楽しくなるように支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		食事量、水分量をチェックし、不足していないか確認できる体制をとっている。		食事量、水分量をチェックし、不足していないか確認できる体制をとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている		毎食後、口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。マニュアルに沿った研修も行っている。		毎食後、口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。マニュアルに沿った研修も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			渦の間 実践状況	川の間 実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をチェックし、排泄パターンを把握することでおむつを使用しないで排泄ができるように支援している。	排泄記録をチェックし、排泄パターンを把握することでおむつを使用しないで排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を1500ml目標に摂取をしていただき、身体を動かす機会を作り献立の工夫、見直しで自然排便できるように取り組んでいる。	水分を1500ml目標に摂取をしていただき、身体を動かす機会を作り献立の工夫、見直しで自然排便できるように取り組んでいる。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日午前、午後と好きな時間に入れる体制をとっている。家庭的な浴室で落ち着いて入浴ができる環境である。	入浴は毎日午前、午後と好きな時間に入れる体制をとっている。家庭的な浴室で落ち着いて入浴ができる環境である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、散歩や体操等を行うことで生活リズムが安定できるようにしている。	日中、散歩や体操等を行うことで生活リズムが安定できるようにしている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や、個人ケースに整理して職員が内容を把握できるようにしている。	服薬ファイルの作成や、個人ケースに整理して職員が内容を把握できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族の協力を得て入居者本人の希望や嗜好に合った役割づくりを行っている。	家族の協力を得て入居者本人の希望や嗜好に合った役割づくりを行っている。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きたいところや、お買物に出かけたり外食、ドライブなども行っている。	行きたいところや、お買物に出かけたり外食、ドライブなども行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			渦の間 実践状況	川の間 実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金についての理解ができる人には、家族の協力を得て少額のお金を持っている人もおり、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金についての理解ができる人には、家族の協力を得て少額のお金を持っている人もおり、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したい希望のある方には、すぐ対応し連絡できるようにしている。手紙やハガキのやり取りも支援している。	電話したい希望のある方には、すぐ対応し連絡できるようにしている。手紙やハガキのやり取りも支援している。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭先のガーデニングを見ることができ、日当たりも良く明るい雰囲気の中居心地良く生活できる。	フロアから菜園をみることができ解放感がある。作物の成長を見て楽しむことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コタツや和室、テーブルやソファで、居心地の良いくつろげる空間をつくっている。	コタツや和室、テーブルやソファで、居心地の良いくつろげる空間をつくっている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や家で使っていた家具をそのまま部屋に持ち込まれ馴染みの生活スタイルに合わせた部屋にしている。	写真や家で使っていた家具をそのまま部屋に持ち込まれ馴染みの生活スタイルに合わせた部屋にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な生活環境づくりを心がけている。入居者にとって危険なものは配置せず安全に生活できる環境を整えている。	安全な生活環境づくりを心がけている。入居者にとって危険なものは配置せず安全に生活できる環境を整えている。トイレとわかるように目印を付けている。	